

飯田市これからの学校のあり方審議会資料

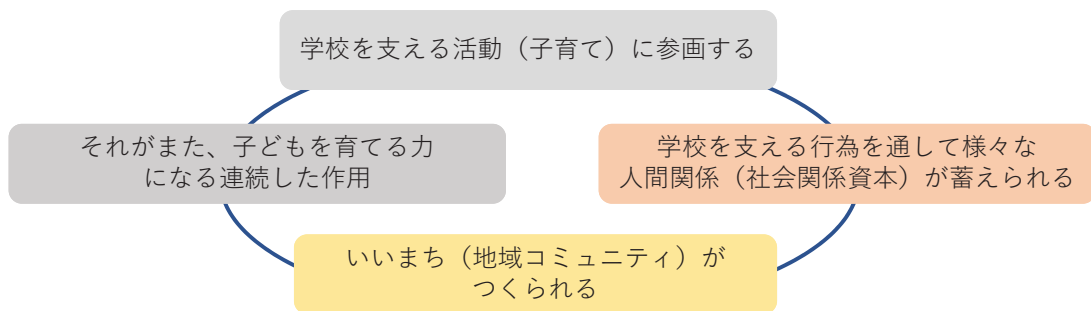
地域と協働する新しい学校づくり

(前) 杉並区教育委員会教育長
井出隆安

2023.9.27

1

1-1.杉並区における学校と地域との協働



いいまちは いい学校を育てる～学校づくりはまちづくり

- * 「いいまち」・・・人と人との交流があり、支え合い、助け合い、育て合うことができるまち
- * 「いい学校」・・・子どもが育つ学校
- * 「学校づくり」・・・学校の教育活動や子育てを支える働き
- * 「まちづくり」・・・地域社会の活性化

作成：井出隆安

2

1-2. 目指す連携・協働の姿

- ① 「地域とともにある学校」への転換
 - ・地域住民と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む。
* 「社会に開かれた教育課程」
- ② 「子供も大人も学び合い育ち合う教育体制」の構築
 - ・様々な機関や団体等がネットワーク化を図りながら、学校・家庭及び地域が相互に協力し、地域全体で学びを展開する。
* 「学び合いを通じた社会的包摂」
- ③ 「学校を核とした地域づくり」の推進
 - ・学校を核とした協働の取り組みを通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る。
* 「学校づくりは まちづくり」

3

1-3. 地域との連携による新しい学校づくり

- 「新しい学校づくりは一つの学校が存する地域だけの問題ではなく、その周辺を取り巻く複数校が存する地域全体の問題であり、教育環境整備とともに「まちづくり」でもあるため、課題解決に向け、関係者と十分な意見交換を行っていくことが必要です。」

* 「杉並区立小中学校新しい学校づくり推進方針」平成26年2月 杉並区教育委員会

4

2-1.杉並区小中一貫教育基本方針

平成21年9月策定、平成26年2月改定

「すべての子どもたちが、自立して社会で生き、
豊かな人生を送るための基盤を築く」 （目的）

5

2-2.小中一貫教育の必要性

- ・ 発達課題の達成と学校教育の役割の確認
- ・ 小学校での成果が引き継がれない、中学校で必要な内容の定着が不十分
- ・ 小・中学校の教員間にある指導や評価に対する考え方や子どもの見方の違い
- ・ 義務教育の出口である中学校3年時に多様な進路選択ができるように、小中学校の連携を深め、両者の「よさ」を「生かし合い」、協働することによって9年間を通した一貫性のある教育を行う必要がある

(杉並区小中一貫教育基本方針より抜粋)

6

2-3.杉並区の小中一貫教育の特長

- ・学校教育法に定められた小学校の修業年限6年間と、中学校の修業年限3年間の枠組みの「6-3制」に基づき、「学習指導要領」の内容を着実に身につけさせる。
- ・義務教育9年間を「4-3-2」とする区切りや、中学校3年生の学習内容を中学校2年生で指導するなどの学習内容の先行実施は行わない。
- ・各学校や地域の実情を踏まえ、多様な教育活動を展開する。
- ・学校支援本部等と協働することにより、義務教育9年間、地域と一体となった多様な活動を展開する。(基本方針より抜粋)

7

2-4.杉並区の小中一貫教育の目指す効果

- 【効果1】 学びの系統性・連続性を重視した指導による学力・体力の向上
- 【効果2】 「かかわり」と「つながり」の中で育まれる豊かな人間性の涵養
- 【効果3】 地域とのかかわりの中で、社会とかがわる力の育成

* 「杉並区小中一貫教育の検証について」(概要) 令和3年5月 杉並区教育委員会

8

2-5-1.これまでの取り組みと効果検証 【効果1】

学びの系統性・連続性を重視した指導による学力・力の向上

① 教育調査

- ・ 区「学力調査(区立中学校3年生の学習習熟度)」
平成26年度 50.5% → 令和元年 64.7%
- ・ 都「体力調査(中学校3年生の体力度(杉並))」
平成26年度 77.3% → 令和元年度 82.3%

② 効果検証

- ・ 「すぎなみ9年カリキュラム」の活用
- ・ 9年間を全教員で意識するようになった

* 「杉並区小中一貫教育の検証について」(概要) 令和3年5月 杉並区教育委員会 (一部抜粋)

9

2-5-2.これまでの取り組みと効果検証 【効果2】

「かかわり」と「つながり」の中で育まれる豊かな人間性の涵養

① 教育調査

- ・ 区「学力調査(区立中学校3年生の相互承認) 自分と違う意見も大事にする態度)の割合)」
平成26年度 87.2% → 令和元年 88.4%

② 効果検証

- ・ 小学生が中学生とかかわる機会の増加
- ・ 小学生が中学生に憧れを抱く
- ・ 小中学校のつながりが増えた

* 「杉並区小中一貫教育の検証について」(概要) 令和3年5月 杉並区教育委員会 (一部抜粋)

10

2-5-3.これまでの取り組みと効果検証 【効果3】

地域とのかかわりの中で、社会とかかわる力の育成

①教育調査

- ・この項目について、区「教育調査」に該当する部分はない

②効果検証

- ・9年間の見通しのある目標を家庭・地域・学校で共有することにより、地域の子どもを三者で協働して育成しようとする意識が芽生えた地域もあり、多くの取り組みが定着した

* 「杉並区小中一貫教育の検証について」（概要）令和3年5月 杉並区教育委員会（一部抜粋）

3-1.高円寺地域における新しい学校づくり

- ・平成16年 杉並区立小中学校適正配置計画策定
- ・平成19年 杉並第四小、高円寺中連携・交流活動開始
- ・平成21年 杉並区立小中学校適正配置計画改定
杉並第八小適正配置検討校対象
杉並区小中一貫教育基本計画策定(26年改定)
高円寺地区（杉三小・杉四小・杉八小・杉十小・高円寺中・高南中）の望ましい教育環境について意見交流
- ・平成25年 「高円寺地区における新しい学校づくり計画」策定
「学校づくり協議会」設置
- ・令和2年4月 高円寺学園開校

3-2.目指す学校像(総論)

「杉並第4小学校における就学前教育との連携や、杉並第8小学校で行われてきたリーダーシップを育む教育の実践及び高円寺中学校が地域の協力を得ながら行っている職場体験学習などの教育の成果と伝統を礎にして、魅力ある学校をつくります。」

- ・ 地域運営学校（コミュニティ・スクール）の導入
地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを進めます

* 「高円寺地域における新しい学校づくり計画」平成25年11月

13

3-3-1.目指す学校像(各論)

- ・ 「教員相互の協力的指導」により「学びの系統生」、「指導の連続性」を重視し、義務教育9年間を通して一貫性のある教育を行う学校
- ・ 6-3制の学校教育制度に基づき、小中学校の校種の違いによる教育的意義大切にしつつ、子どもたち一人一人の発達段階に応じた指導を行う学校
- ・ 一定規模の集団を形成することにより、子どもたちの学び合いを深めるとともに、学校行事等の活性化を図り、より質の高い学びができる学校

* 「高円寺地域における新しい学校づくり計画」平成25年11月

3-3-2.目指す学校像(各論)

- ・ 学年を超えた集団での活動を通して、多様な価値観に触れ、個性や責任感、リーダーシップ等の豊かな人間性を育む学校
- ・ 高円寺地域の特性を生かし、子どもたちが地域の行事や活動に積極的にかかわることによって、地域の一員としての自覚を高め、社会性を育む学校
- ・ 学校施設の複合化、多機能化が図られ、地域コミュニティの拠点となる学校

* 「高円寺地域における新しい学校づくり計画」平成25年11月

15

3-4-1.毎週金曜日は高円寺中学校へ登校

- 1日の生活・授業を高円寺中で -

5・6年生は、毎週金曜日に高円寺中学校へ登校し、1日の生活・授業は高円寺中学校内の5年教室、6年教室で行います。週1日の中学校内での生活は高学年にとって、小中の段差を小さくするためのよい機会となります。

また、指導を通して両校の教職員の共通理解が深まり、連携が強化されます。

(旧) 杉並区立杉並第4小学校HPより転載

16

3-4-2.年間を通して中学校教員と T T 授業

6年生は、国語・算数・社会・理科・体育の授業で、5年生は、国語・社会・理科・体育の授業で、4年生は体育の授業で実施しています。

複数指導のよさに加え、中学校教員の専門性が発揮されます。小中が連携を密にして行う授業は、小中教員同士の信頼関係も築きます。

(旧) 杉並区立杉並第4小学校HPより転載

17

3-4-3.年間を通した多くの行事での交流活動

年間を通して、地域との連携での活動にも小中が一緒に活動を行います。高円寺中のわくわくフェスティバルでは、5・6年生の発表の場が設定され、保護者・地域の皆さんと一緒に行事が進められます。また、運動会は相互参加できるよう工夫したプログラムを組み、共に自分の学校という意識で参加できるようになっています。

(旧) 杉並区立杉並第4小学校HPより転載

18

3-4-4.地域学習・地域連携の充実

本校3年生の地域学習「高円寺カルタ」には、学び支援本部の支援をいただくとともに、中学教員も加わり、共にフィールドワークを行います。地域学習は小中での系統化を目指して実施しています。

地域との連携事業には、小中合同の取組みとして様々な形で参加をしています。小中合同での取組みは、地域の方々からも高い評価をいただいています。

(旧) 杉並区立杉並第4小学校HPより転載

19

3-4-5.教職員の合同研究会・授業研究会

小中一貫教育を実施するにあたり、最も大切なことは、同じ子どもを育ていく小中教職員の相互理解と授業力の向上です。これを実現していくためには日常的な合同研究が欠かせません。本年度は15回の合同研究会を実施し、この内6回は研究授業を行い、互いに協議を重ね一貫教育の授業改善を進めています。

(旧) 杉並区立杉並第4小学校HPより転載

20

3-4-6.小中合同学び支援本部の設置

杉並区の小中学校には学校支援本部という地域のサポーターが中心となった学校支援組織があります。本校では高円寺中と一体化した「学び支援本部」が組織され、教育活動全般に関し一貫教育をサポートしてくれています。

「ふれあい集会」は、地域に在住されている障がいのある方や高齢者の方との交流を深める会で、学び支援本部が企画をコーディネートをしています

(旧) 杉並区立杉並第4小学校HPより転載

3-4-7.「子ども未来高円寺」小中一貫教育ニュースレター



杉並区立高円寺中学校HPより転載

4.学校を支える地域の教育力

① 学校支援地域本部

- ・ 主な支援活動：教科等学習支援、授業コーディネート、ICT環境整備、図書室運営、部活動指導支援、放課後居場所等

② 地域運営学校

- ・ 主な活動：地域特性を活かした教育活動の企画・立案・推進（教育課程の承認、教員人事具申）

③ 地域の生涯学習機関との連携

- ・ 公民館、図書館、郷土資料館、NPO、民間団体等

23

* 使用関係資料

- ・ 「杉並区立小中学校新しい学校づくり推進方針」平成26年3月（杉並区教育委員会）
- ・ 「杉並区小中一貫教育基本方針」平成26年2月（同）
- ・ 「杉並区小中一貫教育の検証について」令和3年5月（同）
- ・ 「高円寺地域における新しい学校づくり計画」平成25年11（同）
- ・ （旧）杉並区立高円寺中学校HP
- ・ （旧）杉並区立杉並第四小学校HP
- ・ 「すぎなみ9年カリキュラム」（杉並区済美教育センター）

24